

フェーズフリーの定着のために

一般社団法人 光楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

である。

▼フェーズフリー再考
本紙の年頭所感で、筆者は、「自然と共生するために三つの振る舞い」と題して、次を掲げた。

【1】自然と至然（しぜん）、
【2】フェーズフリー、
【3】地方快活（ふるさと快活）で地方復権

本号では、【2】のフェーズフリーについて私見を述べる。年頭所感では、次のように述べた。

「…自然からの警告（自然災害）に、人間が生き残れるように、日常から備える振る舞いを易導するために、新しい合言葉である「フェーズフリー」を復唱し、その概念を定着しよう。…」

したがって、「フェーズフリー」への意識は大事となる。平穩な日常時と、災害を被った非常時という二つのフェーズに境を設けないようにする概念である。

筆者は、年頭所感で述べたように、今年の活動の一つに、フェーズフリーの概念の定着を進めたいと考えている。

▼暮張メッセでのセミナー

先週（2月18日）、暮張メッセでフェーズフリーの提案者である佐藤唯行氏が講師を務めるセミナーに参加した。その10日ほど前、佐藤氏の本社を訪ね、「フェーズフリー」への取り組みについてのこれまでの展開の総括と、今後について打ち合わせをした折に参加を勧められていた。

そのセミナーは、観光国際観光施設協会が主催したもので、「フェーズフリー 日常と非日常をフリーに」観光と防災の新しい融合」と題する40分の講演であった。このテーマは、わかりやすい。特に、副題の「観光と防災の新しい融合」が、同じく位相のことと

は、今後の取り組みと必要性を的確に表現している。

セミナーには、200人くらいが参加したが、必ずしも観光の専門家ではない。が、新しい概念の「フェーズフリー」について、新鮮さと防災についての意識向上に役立つと思われる。そのセミナーの内容を重ねて、「フェーズフリー」について復習する。

▼「フェーズフリー」とは？

「フェーズフリー」という言葉には、難解の意見が多い。〇〇フリーという表現は、バリアフリーやタックスフリーあるいはデューティーフリーなどとしてよく知られているが、フェイズ（時）については、なじみがなく、したがって「フェーズフリー」の浸透に時間がかかる。電気が掛かっている。電気について知識のある方は、交流電源には、単相交流と三相交流があり、それらはシングル・フェイズ、スリー・フェイズと呼ばれており、フェイズとフェイズのカタカナ表記の違いはあるが、同じく位相のことと

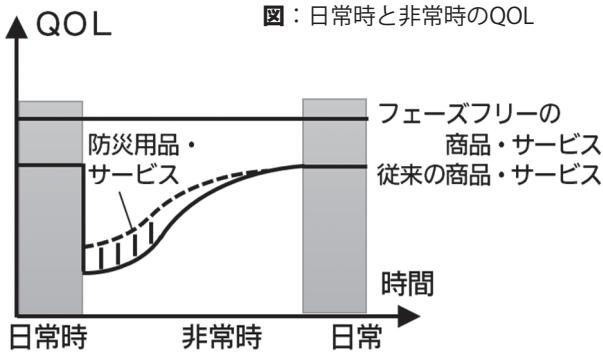
理解できるだろう。しかし、「フェーズフリー」は、位相が無いというのではない。筆者は、「フェーズフリー」の「フェーズ」を「局面」ととらえている。フェーズには、平穩無事な日常の日々の局面・フェーズと、災害やトラブルのある被災時や災害時という局面・フェーズの二つがあり、それらの境（さかい）が無いというのが、「フェーズフリー」の意味、言葉である。

▼防災に係る「フェーズフリー」とは？

言葉としての「フェーズフリー」は、日常時と非常時のフェーズ（局面）に境がないということであるが、その対象は何であろうか？「フェーズフリー」を構想し、提案している佐藤氏が、定めた対象は、QOL（Quality of Life、生活の質）であった。

QOLとは、日常時と非常における生活の質的価値を指している。しかも、フェーズフリーという概念が導入することにより、

図：日常時と非常時のQOL



フェーズフリーを導入されないよりも、QOLのレベルは、フェーズフリーでない従来のQOLよりも高いことを意識している。このことを図式的に表したのが、右図である。

図のように、フェーズフリーが導入されない従来の商品・サービスによって提供されるQOLは、日常時には高いが、非常時には急激に低下する。例えば、停電により、照明は停止し暗闇の不便さを強いられる。その後、次第に復旧が進み、ついには日常時に復帰する。なお、何かしらのバックアップ（非常電源やバッテリー、あるいは懐中電灯等）があれば、点線のようにQOLは少し高めのカープで回復す

フェーズフリー協会などを設置し、フェーズフリーの普及を進めている。

「フェーズフリー」には、次の5つの原則を課している。①常活性（どのような状況においても利用できること）、②日常性（日常から使えること）、③直観性（使い易い、使用限界、利用限界が分かりやすいこと）、④触発性（気づき、意識、災害に対するイメージを生むこと）、⑤普及性（参加でき、広めたりできること）である。

フェーズフリー協会では、防災に端を発し、フェーズフリーな世の中を実現する「フェーズフリーデザイン」として、ビジネス界で既に開発されている商品・サービスを評価している。その評価には、上記①に関わる汎用性と、②③④⑤に関する有効性とと総合的に行動、数えること切がない。『フェーズフリーデザイン事例集』（V.1.00）に12を記載している。その中の最初に掲げられているトヨタ自動車の「プリウスPHV」は、分かりやすい例である。

暮張メッセでのセミナーでも、佐藤氏は「プリウスPHV」を取り上げた。日常時はエコカーとして、非常時は発電した家で4日間の電力供給が可能となる電力バックアップ装置になると紹介した。図1で説明する。図1で説明する。フェーズフリーの「想像の壁」を、フェーズフリーで透明にしたい。筆者は、11月に台風19号で大きな被害を受けた長野県を地域として、防災にフェーズフリーを取り入れた「鉄の道博2020 in NAGANO」というイベントを開催する企画を立てている。